

《里沼について考えました》 R7. 12. 9

12月の朝会で、校長先生から館林市の誇る日本遺産、里沼についてお話がありました。

これまでに子どもたちは、総合的な学習の時間や館林市のふるさと作り出前講座等を通して、里沼について学んできました。また、里沼の自然を守るために活動している大泉高校のグリーンサイエンス科の出前授業にも参加しました。6年生が、高校生から里沼のすばらしさを楽しいクイズを交えながら説明してもらったり、植物の一部分をつかって、瓶の中で植物を育てる『インビトロプランツ』にも挑戦したりしました。

このように、子どもたちは今までも里沼について学んできましたが、校長先生が館林市にある沼、茂林寺沼・多々良沼・城沼等について説明をすると、とても興味深そうに聞き入っていました。

特に、茂林寺沼は「祈りの沼」、多々良沼は「実りの沼」、城沼は「守りの沼」というお話には、「おもしろい。」と感じた子が多かったようです。



自分たちの住む街に、昔から豊かな自然があって、多くの人や動植物が生きていたのだと想像するのがおもしろかったそうです。

茂林寺沼は、その周辺に関東平野でも珍しい低地湿原があり、希少種の生き物や植物が生息しています。沼の畔には、1426年開山の茂林寺があり、昔から「祈りの場」として人々の暮らしを豊かにしてきました。

「実りの沼」と呼ばれる多々良沼は、平安時代から行われてきた、たたら製鉄から名付けられたとも言われています。中世期には、沼から用水が引かれ、周辺の潤った大地では、米麦の二毛作が盛んになり肥沃な穀倉地帯が育まれたそうです。

城沼は、館林市中央部にある東西に細長い沼で、西岸に館林城が築かれ、江戸時代には人を寄せつけない「守りの沼」となっていたそうです。南岸にはつつじヶ岡公園もあり、今では多くの人に親しまれる沼になっています。



他にも、子どもたちから「蛇沼・近藤沼も知っている」などの声上がるなど、里沼は、令和の時代の子どもたちにとっても、身近で大切なものなのだと感じました。

三小の皆さん、冬は空気が澄んで、いつも以上に沼や周辺の景色がきれいに見渡せます。上空を飛ぶ、白鳥もとってもきれいだと思いますよ。お家の人と一緒に、ぜひ身近な里沼を散策してみてください。皆さんが住む、館林の里沼は、日本に、世界に誇れる素晴らしい場所だと思いますよ。

【参考 館林市「里沼」公式ホームページ:「館林の里沼」(SATO-NUMA))